

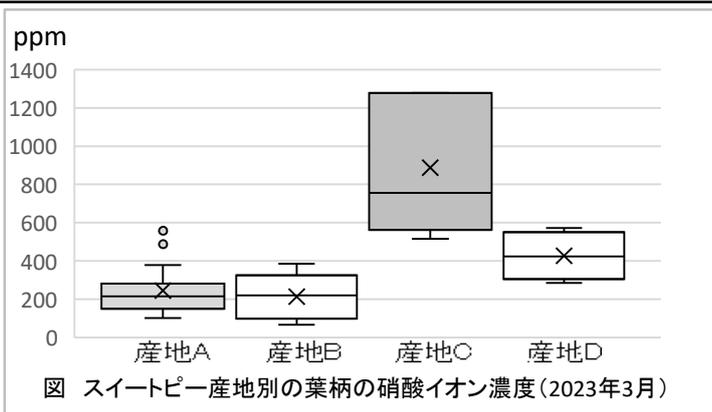
スイートピーの栄養診断技術の確立に取り組んでいます

【研究のポイント】

スイートピーは、12月から3月にかけて1つの株から連続して花を取り続けます。栽培後半になると切り花が短くなるのは樹勢が弱くなるからとされており、樹勢の維持が重要だと考えられています。
 これまでは樹勢は葉の大きさなどの形質(外観)で判断してきましたが、イチゴやトマト等で技術確立されたように、栄養状態(硝酸イオン濃度)で評価できないか試験を行っています。
 測定部位としては、葉柄と栽培の邪魔になるため定期的に除去する巻きひげをそれぞれ供試し、栄養診断の可能性を検討しています。

【研究の成果】

葉柄の硝酸イオン濃度を調査した結果、3月において収量が多い産地の値は高いことがわかりました(右箱ひげ図: データのばらつきを示す)。
 また、葉柄と巻きひげとでは葉柄の方が硝酸イオン濃度が高い傾向が見られました(データ省略)。



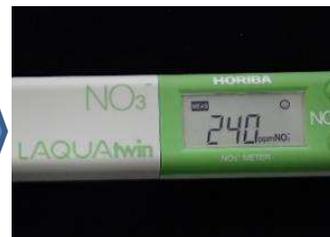
【測定手順】



サンプリングした巻きひげ



特定の割合で水を加え摩砕



摩砕液の測定

スイートピーの硝酸イオン濃度は個体によってかなりばらつきがあることが分かり、個々のサンプルの量も少ないため、サンプル数を増やす必要がありました。多個体からサンプリングした巻きひげの硝酸イオン濃度と葉の大きさや切り花長などとの関係について引き続き調査中で、スイートピーの樹勢評価への活用を目指し、栄養診断の技術確立に取り組んでいます。3月に切り花長が短くなることでの収量減少を改善し、所得向上に貢献するための基礎技術になります。

【生産者の声】



樹勢の判断やかん水・施肥によるコントロールは生産者の経験によって行われています。そういう部分が客観的な数値で評価されるようになることを期待しています。

豊後大野市 和田 氏

【連絡先】

担当: 農業研究部花きグループ花きチーム
 TEL: 0977-66-4706
 住所: 大分県別府市大字鶴見710-1